育児不安に関する臨床的研究

—— 幼児の母親を対象に ——

愛育相談所　川井　尚・庄司順一
千賀悠子・加藤博仁
保健指導部　中野恵美子
嘱託研究員　恒次欽也（愛知教育大学）

要約：本報告では，育児不安の概念を明らかにしながら，育児不安の構成要素を抽出し，それに基づく対応すなわち，保健指導や育児相談に役立つ知見を得ることを目的に研究をすすめた。調査対象は，３歳から７歳未満の児をもつ母親1242名であり，前回報告した３歳未満のデータとの比較検討も考え，同一の67調査項目の調査を行った。データの整理は，単純集計及び３歳未満児とのクロス集計，育児不安項目(29項目)の因子分析，その因子を構成する項目の合計点の平均値により，他の項目の群間の差の検定(多範囲検定ならびにU検定)を行った。その得られた知見を要約すると，１)３歳以上の母親は，育児により困難な感じをもち，一方，３歳未満の母親はそれに比べて，不安はあっても楽しさ，楽天的なポジティブな感覚をもって育児にあたっている。２)因子分析により，第１因子「育児困難感」，第２因子「不安，抑うつ感」，第３因子「非社会性」因子がとりだされたこと，そしてもっとも重要な知見は，第１因子と第２因子が逆転したことである。すなわち，３歳未満群では，第１因子が「不安，抑うつ感」であったが，３歳以上群の第１因子は〈何となく育児に自信がもてない〉，〈子どものことで，どうしてよいかわからない〉，〈母親として不適格〉等の項目から構成される「育児困難感」であり，したがって，乳児・幼児初期と幼児期の育児不安とは質的に異なるものである可能性があると考えられる。この点について２つの時期の育児不安の内容に適した対応についてそのいくつかのポイントを示したが，更なる臨床的検討を必要とし，今後の育児相談，保健指導等のあり方を明らかにしていくことが，重要な課題であることを指摘した。

見出し語：育児不安，幼児の母親，育児不安と保健指導・育児相談

A Clinical Study on Maternal Anxiety Related to Child-Rearing("Ikuji-Fuan")

Hisashi KAWAI, Jun-ichi SHOJI, Yuko CHIGA,
Hirohito KATO, Emiko NAKANO, and Kin-ya TSUNETUGU

Abstract: The purpose of this study was to clarify the concept of "Ikuji-Fuan" (maternal anxiety related to child-rearing) and to examine factors that constituted the "Ikuji-Fuan", so as to provide appropriate help or treatment for mothers. A questionnaire with 67 items that is the same one of previous report was used. Participants were 1242 mothers of the child aged 3- to 6-years old. Three factors of "Ikuji-Fuan" were extracted by factor analysis: (1) feelings of difficulty with child-rearing, (2) feelings of anxiety or depressive state, and (3) non-sociability. These results suggested qualitative differences in "Ikuji-Fuan" between mothers of preschoolers and those of infants.

Key words: Ikuji-Fuan, Child-rearing anxiety, Mothers, Preschoolers, Guidance for child-rearing

Ⅰ．研究目的

母親への育児援助をめぐって，育児不安をいかに解決するかが小児の専門家の大きな課題といえる。しかし，育児不安という概念そのものがきわめてあいまいであり，かつ多義的に用いられてきたといえる。そこで筆者らは先に０歳から３歳未満の児をもつ母親を対象に，育児不安の概念を明らかにし，その上で育児不安に関連する要因を見いだすための基礎的な調査研究を行った[1]。その主な結果を要約すると次のようである。

すなわち，あらかじめ育児不安に関係すると思われた29項目について主因子法バリマックス回転により因子を求めたところ，２因子が抽出された。その第１因子は，心配性，不安や恐怖感，気が滅入る，淋しい気持ちなどの７項目からなり，「不安，抑うつ感」因子と命名された。

第２因子は，母親として不適格，子どものことがわずらわしくイライラする，育児に自信がもてない，育てることが負担に感じられるなどの８項目からなり，「育児困難感」因子とした。乳児期から幼児期初期の育児不安には，この２つの因子があると仮定され，また，これらの因子それぞれの項目合計得点による他の項目群間の差について統計的な検討を加えた。その結果，「不安，抑うつ感」は，〈子どもへの現在の不安〉，〈現在の心配〉，〈気になる行動〉，〈difficult baby〉，〈夫婦関係〉，〈対人関係〉など広範囲にわたって大きな得点がネガティブな群に有意に認められ，母親自身の精神的な問題との関与も考えられた。

「育児困難感」因子の大きな特徴は，子どもの状態によっては有意差があまり認められないにも関わらず，育児上の不安に有意差がみられることから，この心的状態は「育児不安」の本態に近いものと考えられた。

そこで，本研究では，３歳以上７歳未満の幼児をもつ母親を対象に調査研究を行い，乳児期及び幼児期初期の育児不安との異同を明らかにすると共に，その分析・検討に基づき，育児不安についての保健指導，育児相談への寄与を目的に臨床的観点から研究をすすめ，ある程度の知見を得たのでここに報告する。

Ⅱ．研究方法

１．調査項目の選定

乳児期・幼児期初期との比較ができるように，同一項目を選定し，幼児期に適当な選択肢を加除し調査票を作成した。項目は表１及び付表を参照されたい。

２．調査対象

対象は，３歳以上７歳未満の幼児をもつ母親1242名である。因子分析の有効標本は1222名であった。

対象者の属性について，子どもの年齢は３歳児115名，４歳児344名，５歳児448名，６歳児315名であり，性別は男児612名，女児610名であった。母親の年齢は，29歳まで15.2%，30から34歳45.0%，35歳以上31.9%，40歳以上7.9%であった。

母親が就労しているものは37.9%，専業主婦62.1%であり，保育園児33.1%，幼稚園児58.7%である。

３．調査方法

調査地域は，東京都区内，埼玉県(熊谷市，狭山市)，神奈川県(海老名市，川崎市)，群馬県(藤岡市，大間々町)，愛知県(豊橋市，日進市，刈谷市)であった。

調査場所は，保育所７カ所(287名)，幼稚園６カ所(954名)であり，園を通して調査票を配布し，回収した。1500部の調査票を配布したので，回収率は約83%であった。

４．整理方法

以上の方法により得られた有効標本1242名のデータについて，調査項目の全体像を把握するために，単純集計及び３歳未満児のデータとのクロス集計を行った。次いで幼児期の育児不安を明確にすると共に，乳児期のデータとの比較のために，同じ統計処理，すなわち育児不安に関する項目の因子分析(主因子法：バリマックス回転)，および抽出された因子を構成する項目群の単純加算をし，項目得点を求め，そのスコアに基づいて他の項目の群間差検定(多範囲検定またはU検定)を行った。

Ⅲ．結果

１．単純集計及び乳児・幼児期初期と幼児期の比較検討

表１に育児不安項目，付表にその結果を示した。

(1)育児不安項目について

表１にみるように，３歳未満の母親とその比率はほぼ同傾向を示している。しかし，両群の有意差(カイ自乗検定)をみると，３歳以上の母親群(以下幼児群)は，３歳未満の母親群(以下乳児群)に比べて「育児に自信

がもてない(35.7%)」「子どものことでイライラする(22.4%)」「母親として不適格(55.4%)」「子どもを虐待しているのでは(44.2%)」「とても心配性で，あれこれ気に病む(36.0%)」「人づき合いより，一人の方が好き(31.5%)」「イライラする(45.6%)」の項目が有意に多い。一方，乳児群に多い項目をみると，「子どもといると楽しい(97.0%)」「うまく育てている(54.8%)「幸せな気分ですごしている(77.7%)」「楽天的であまりくよくよ考えない(64.5%)」「人づき合いが好き(70.9%)」といったポジティブな項目がみられる。また，「育児により，我慢ばかりしている(11.6%)」「やりたいことができずあせる(35.9%)」「育児ノイローゼに共感できる(60.6%)」の項目が幼児群より有意に多い。

(2)育児についての心配，手助けなどの時期(付表１)

育児についての全体的な不安，心配を感じたことがないものは23.1%いる。そして，現在心配している母親が10.4%であり，この項目には両群間に有意差はない。

育児の手助けについては，現在手助けがほしいとするものは，乳児群(26.6%)に有意に多く，幼児群の3.2%と大きな差をみせている。また，以前の心配の時期を問うと，妊娠中12.6%，退院から１ヶ月16.7%，１ヶ月すぎ～３ヶ月15.0%，２歳前後14.0%，３歳前後18.9%に比較的比率が高い。また，乳児群では妊娠中の心配が23.5%を示すなど，思い出す時期が短いと比率は高くなる傾向がみられる。以前手助けがほしかった時期は，退院直後(11.8%)から３ヶ月までに多く，次いで１歳前後(13.9%)から２歳前後(12.1%)に集中している。ここでも，乳児群の方が生後３ヶ月までの比率が高い。

(3)子どものようす(付表２から４)

多くの母親は子どもに対し，満足感をもっているが(90.8%)，幼児群は乳児群に比し満足の程度が低く，不満足が有意に高い(4.2%：9.4%)。

子どもの性質に関しては，年齢要因もあって両群間に有意差が多くみられる。

表１　育児不安項目(多重回答：３歳児以上 N=1222，３歳児未満 N=766)

	項　　目	３歳児以上 N	３歳児以上 %	３歳児未満 N	３歳児未満 %	χ^2値	有意性
1	何となく育児に自信がもてないように思う	442	35.7	195	25.5	22.8	**
2	育児についていろいろ心配なことがある	652	52.6	395	51.6		－
3R	子どもといっしょにいると楽しい	1144	92.3	743	97.0	18.6	**
4	子どものことがわずらわしくてイライラする	277	22.4	128	16.7	9.4	**
5	子どものことで，どうしたらよいかわからなくなることがある	630	50.8	370	48.3		－
6R	子どもをうまく育てていると思う	497	40.1	420	54.8	41.3	**
7	私一人で子どもを育てているのだと思う	69	5.6	43	5.6		－
8	子どもを育てるため，我慢ばかりしていると思う	98	7.9	89	11.6	7.7	**
9	子どもを育てることが負担に感じられる	112	9.0	79	10.3		－
10	自分のやりたいことができなくてあせる	279	22.5	275	35.9	42.4	**
11	母親として不適格と感じる	359	29.0	152	19.8	10.5	**
12	育児ノイローゼに共感できる	686	55.4	464	60.6	5.2	*
13	私の生きがいは育児とは別である	728	58.8	417	54.4		－
14	しかりすぎなど，子どもを虐待しているのではないかと思うことがある	548	44.2	172	22.5	97.5	**
15	特に理由はないが，子どものことがとても気になる	513	41.4	330	43.1		－
16	何かというと子どもに目がいってしまい，気疲れする	280	22.6	174	22.7		－
17R	とても幸せな気分で過ごしている	780	63.0	595	77.7	47.6	**
18	何ともいえず淋しい気持ちにおそわれることがよくある	214	17.3	122	15.9		－
19	気が滅入ることがよくある	347	28.0	198	25.8		－
20R	楽天的であまりくよくよと考えない方である	684	55.2	494	64.5	16.8	**
21	何事にも敏感に感じすぎてしまう方である	407	32.8	224	29.2		－
22	とても心配性で，あれこれ気に病むことが多い	446	36.0	236	30.8	5.7	*
23	人とつきあうよりも，一人で何かしている方が好きである	390	31.5	168	21.9	21.5	**
24R	人づき合いが好きな方である	716	57.8	543	70.9	34.8	**
25	不安や恐怖感におそわれることがよくある	160	12.9	97	12.7		－
26	いてもたってもいられないほど落ちつかないことがよくある	100	8.1	55	7.2		－
27	イライラすることが多い	565	45.6	290	37.9	11.6	**
28	ひどく疲れやすい	408	32.9	245	32.0		－
29R	からだの調子は	951	76.8	612	79.9		－

(注)　２件法で，「はい」(項目29は「快調」)と答えた人数と頻度
　　Rは逆転項目で，２件法で「はい」と答えた頻度
　　χ^2検定による。** p<.01，* p<.05，－ n.s.

現在心配なことでは，身体や病気のことが最も多く(40.3%)，次いで落ち着きがないなどの「性質」とした項目(33.5%)，夜尿などの排泄(24.5%)，指しゃぶりなどの癖(32.1%)が高い比率を示した。この領域でも年齢要因による有意差がみられている。

(4)妊娠・出産をめぐって(付表５から９)

妊娠について，望みどおりあるいは計画どおりの人は75.0%おり，両群間に有意差はない。ただし，乳児群にやや予想外の比率が高い(22.7%：19.4%)。

妊娠したときうれしかったのは58.8%で，ここでも有意差は認めない。

マタニティブルーズを想定した，涙もろさは44.4%で，乳児群50.0%より有意に低く，これは時間経過の影響であろう。

次子を望むかについて，「もうほしくない」が67.6%であり，乳児群の29.0%と比べて有意に低率である。

はじめての子をもつ前に乳児とかかわった経験をきくと，抱いたり(62.5%)あやしたり(57.9%)が多く，ミルク(29.0%)，おむつ(31.1%)，世話(32.7%)等の育児行動が低率である。

(5)乳児期のようす(付表10)

眠りがよい，あるいはふつうが多いが，しかしあまり眠らない子が20.7%いることに留意したい。よく泣き，なだめにくい子が13.7%でこれは乳児群(14.2%)とほぼ同率である。母乳やミルクの飲みのよくなかったものは，乳児群に有意に多くみられた(9.7%)。乳児期手がかかり，大変であった子はほぼ同率で乳児群16.7%，幼児群17.3%である。

(6)夫(父親)および父子関係(付表11)

子どものことで話し合う機会があまりない夫婦は幼児群に有意に高いことに注目される(12.0%：22.7%)。夫婦の気持ちが通じ合っていない，あるいはどちらともいえないのは，有意に幼児群に多く(20.7%：29.4%)認められた。

父親の子どもとの関わりが，消極的な傾向にあるのは幼児群(21.2%)であり，積極的に相手をするのは乳児期(50.4%)に多い。父親の家事参加も同じ傾向にある。子どもを生む決心をしたものは，母親が半数以上を占めているが，10%強父親が決めていることに留意したい。

(7)住居，近隣の状況(付表12,13,14)

マンションの場合，５Ｆ以上の居住は幼児群に多い傾向にある(11.8%：16.8%)。隣や階下への気づかいについて，年齢のあがる幼児群に有意に多いのは当然であろう(42.6%：63.4%)。近くに小さい子が少ないとするのは乳児群43.8%，幼児群50.0%もあることに注目したい。

子どもを預け合うことは幼児群に有意に多く，「ない」とするものが乳児群62.9%，幼児群35.3%である。

(8)相談に関すること(付表15,16,17,18,19)

相談できる友人がいない人は有意差をもって幼児群に多い(7.0%：9.8%)。また，母親に相談できない人も同様幼児群に高率である(15.3%：22.5%)。

子どものことで相談できる人は，両群とも夫が第１位である。保健所などの相談機関の利用は乳児群に有意に多い(10.6%：4.9%)。

子どもを育てる上で必要なシステムは，育児相談と(乳児群54.0%：幼児群52.3%)，母と子の遊びの教室が高率であった(乳児群56.1%：幼児群47.5%)。

(9)育児に関する情報源(付表20)

育児雑誌，育児書，テレビ番組の利用率は高いが(ex雑誌，乳児群68.8%：幼児群53.0%)，役に立つ率が低い(41.9%：26.9%)。一方，親やきょうだい，友人は利用率も(ex親，64.2%：63.0%)，そして役に立つ率も高い(51.9%：52.0%)。この利用と役に立つ関係の比率は，保健所，保健センター，医院，病院も同様である。

(10)子どもに関する心配事(付表21,22)

対象児のきょうだいへの心配があるものは，両群とも約20%みられた。

病気は湿疹，吐くことが乳児群に有意に多く(湿疹，乳児群39.4%：幼児群24.4%)，体重が増えないは幼児群に多い(乳児群12.7%：幼児群16.7%)。夜泣き，眠りの浅さは乳児群に多く(夜泣き，乳児群38.4%：幼児群20.3%)，一人で寝ないのは幼児群に多くみられる(44.2%：59.4%)。下痢，便秘の比率は乳児群に有意に高い(下痢，乳児群68.8%：幼児群5.1%)。指しゃぶりなどの癖は両群に有意差は認められない。癖の中で爪かみの比率が両群とも28.9%，27.0%と高いことが注目される。

癇がつよい等，子どもの性質の中で極端な人見知り(乳児群5.6%：幼児群6.4%)ひどく怖がる(6.0%：8.7%)，母から離れない(17.2%：11.4%)の項目は〈不安〉を基底としており注目したい。こだわりが強いものは幼児群に有意に多い(11.2%：23.3%)。発達の心配について，両群に有意差は認められず，また，言葉と全体的遅れの比率も各群ともほぼ同様である。

２．育児不安－因子分析による検討－

乳児・幼児初期のデータ処理と同様に，表１の育児

表２　育児不安項目の因子分析結果

第１因子　育児困難感（固有値　5.923630　寄与率　52.7%）

	項　　目	負荷量
1	何となく育児に自信がもてないように思う*	0.6540
5	子どものことで，どうしてよいか分からない	0.5873
11	母親として不適格と感じる*	0.5542
2	育児について，いろいろ心配なことがある	0.5467
6R	子どもをうまく育てていると思う*	-0.5062
14	子どもを虐待してるのではないかと思う*	0.4798
27	イライラすることが多い*	0.4681
4	子どものことがわずらわしくてイライラする*	0.4531

第２因子　不安・抑うつ感（固有値　1.271389　寄与率　11.3%）

	項　　目	負荷量
22	とても心配性で，気に病むことが多い*	0.6908
21	何事にも敏感に感じすぎてしまう*	0.6767
20R	楽天的であまりくよくよと考えない*	-0.6550
19	気が滅入ることがある*	0.4817
25	不安や恐怖感におそわれる*	0.4196
18	何ともいえず淋しい気持ちにおそわれる*	0.4049
15	特に理由はないが子どものことが気になる	0.4003

第３因子　非社会性（固有値　1.076094　寄与率　9.6%）

	項　　目	負荷量
24R	人づき合いが好きな方である	-0.6176
23	人とつき合うよりも一人で何かしている方が好き	0.5468

（注）　主因子法のバリマックス回転による。
　　＊は，３歳児未満の場合と同じ因子構成項目。

不安項目の因子分析を，主因子法バリマックス回転により行った。分析対象は1222名の母親である。その結果，固有値1.0000以上の３因子が抽出された(表２)。

第１因子は，何となく育児に自信がもてない，子どものことでどうして良いかわからないなど，８項目からなり「育児困難感」因子と命名した。

第２因子は，心配性で気に病む，敏感に感じすぎる，不安や恐怖感，気が滅入る，淋しい気持ちにおそわれるなど，７項目からなり「不安，抑うつ感」因子とした。

第３因子は，人づき合いが好きでない，人とつき合うより一人の方がよいの２項目からなり，「非社会性因子」と名づけた。

まず，乳児群と比較して一番目の特徴は第３因子の登場である。

次いで，もっとも大きな特徴は第１因子と第２因子が逆転していることで，つまり乳児群では第１因子が「不安，抑うつ感」であったものが，幼児群は「育児困難感」が第１因子となり，固有値，寄与率からみて幼児期の育児不安の中核をなしている。

次に，各因子の特徴をみると，「育児困難感」因子では＊印の６項目が乳児群と同じである。しかし，〈５．子どものことでどうしてよいか分からない〉，〈２．育児について，いろいろ心配〉の２項目が幼児群独自のものである。

一方，乳児群にあった〈17．幸せな気分で過ごせていない〉，〈９．子どもを育てることが負担に感じられる〉の２項目が落ちている。

「不安，抑うつ感」因子の特徴は，〈15．特に理由はないが子どものことが気になる〉という項目の出現で，乳児群にはみられない「子ども」が加わったことである。一方，乳児群の〈26．いてもたってもいられないほど落ちつかない〉の項目はない。そして，「非社会的」因子の人づき合いに関する領域が幼児期の母親に初めて認められたことである。

３．「育児困難感」得点，「抑うつ・不安感」得点の諸項目群間の差の検定(表３)

29の育児不安項目を因子分析した結果，抽出された３つの因子の内，固有値が低く，構成する項目も２つしかない第３因子(非社会的因子)を除く２因子について，それぞれの因子を構成する項目の加算点に基づいて，第１因子については育児困難感得点，第２因子は抑うつ・不安感得点を求めた。この得点にもとづき他

の諸項目の各群の平均値を算出し，３群以上間の検定には一要因分散分析後，多範囲検定(ダンカン法)を，２群間の検定にはU検定を実施した。なお，両因子とも合計点が低いほどネガティブであるといえるが(得点の与え方のため)，わかりやすさのためにネガティブ(実際は平均点が低い)の場合に(平均点が)大きかったと逆の表現にしてある。すなわち，ネガティブさが大きいという意味である。また，下記で「因子の得点」というのはいわゆるサンプルの因子得点ではなく，上に述べた構成する項目の単純加算点である。

表３　２つの育児不安因子と各要因との関連（多範囲検定とU検定）

要　　因	選　択　肢	第１因子 育児困難感タイプ F(Z)値　有意性	第２因子 不安・抑うつタイプ F(Z)値　有意性
育児について心配だった時期	心配を感じたことない・現在心配・以前心配だった	95.792***	43.011***
育児の手助けがほしかった時期	思ったことない・現在ほしい・以前ほしかった	13.612***	20.178***
子どもの様子	満足・まあまあ満足・やや不満足・不満足	58.701***	13.778***
子どもの身体や病気の心配[a]	ない・ある	6.294***	4.103***
泣きについての心配[a]	ない・ある	7.443***	7.745***
睡眠や夜泣きについての心配[a]	ない・ある	5.241***	5.727***
授乳やミルクについての心配[a]	ない・ある	3.535**	4.327***
離乳食についての心配[a]	ない・ある	5.416***	5.808***
排泄についての心配[a]	ない・ある	4.083***	2.467*
行動や癖についての心配[a]	ない・ある	5.320***	6.011***
性質についての心配[a]	ない・ある	11.549***	8.919***
発達についての心配[a]	ない・ある	5.911***	4.282***
妊娠は	望んでいた・計画どおり・予想外・望んでいなかった	4.035**	0.832 －
妊娠に気づいたとき	うれしかった・うれしいが不安だった・不安だった	11.732***	7.729***
出産後，涙もろくなったこと[a]	ない・ある	6.056***	6.425***
次の子どもをほしいか	ほしい・まだほしくない・もうほしくない	1.118 －	0.681 －
乳児期の眠り	よく眠った・ふつう・あまり眠らなかった	7.885***	4.265*
乳児期の泣き	あまり泣かなかった・ふつう・よく泣いたがなだめやすかった ・よく泣き，なだめにくかった	7.502***	3.395*
乳児期の飲みのぐあい	よく飲んだ・ふつう・飲みがよくなかった	3.150*	4.959**
乳児期の印象	手がかからなかった・ふつう・手がかかった	8.679***	3.547*
夫と子どものことを話し合う[a]	よくある・あまりない	5.086***	3.939***
夫と気持ちが通じ合っている	はい・いいえ・どちらともいえない	24.987***	16.949***
夫は子どもの相手をすることに	積極的・まあまあ積極的・あまり積極的でない・消極的	5.950***	1.794 －
夫は家事をすることに	積極的・まあまあ積極的・あまり積極的でない・消極的	8.055***	4.199**
子どもを生む決心したのは	主に私・主に夫・二人で	3.194*	1.645 －
地域に小さな子どもは多いか[a]	多い方・少ない方	0.435 －	2.343*
住まいは	一戸建・マンション・アパート	2.199 －	0.572 －
子どもを預けあうこと	よくある・たまにある・ない	1.056 －	3.287*
困ったとき相談できる人	いる・いない	3.603**	4.382***
自分の母親に何でも相談が[a]	できる・できない	1.248 －	3.082**
電話相談をしたこと[a]	ある・ない	2.242*	3.230**
子どものきょうだいに心配事[a]	ある・ない	8.295***	5.632***
母親(自分)の就労[a]	就労している・専業主婦	0.960 －	2.894**
母親の年齢	29歳まで・30歳～34歳・35歳～39歳・40歳以上	12.504***	1.993 －
夫の年齢	29歳まで・30歳～34歳・35歳～39歳・40歳以上	6.744***	2.454 －

(注) aはU検定による。その他は分散分析による。*** p<.001　** p<.01　* p<.05　－ n.s.

(1)心配，不安を感じた時期

「育児困難感」「不安，抑うつ感」両得点ともに〔現在が心配，不安〕群がもっとも平均点が大きかった。

(2)手助けを必要とした時期

２つの因子とも〔現在の手助け〕を必要とする群がもっとも大きかった。

(3)子どものようす(満足，不満足)

不満足の強い群ほど２つの因子の得点は大きくなる傾向が認められた。

(4)病気から行動，性質，発達の心配までの９項目

それぞれの項目の〔心配〕が大きくなる群ほど両因子の得点が有意に大きくなった。

(5)妊娠，出産

〔のぞまない妊娠〕群は「育児困難感」のみで有意に大きな得点を得た。〔妊娠に気づいたときに何らかの不安を抱いている〕群は他群に比べて，両因子ともに有意に平均値が大きかった。次の子を望むかどうかでは両因子とも有意差は認められなかった。

(6)乳児期のようす(眠り，泣き，母乳，ミルクの飲み，手がかかるか)

両因子ともに〔眠りの悪い〕群，〔飲みが良くない〕群，〔手がかかる〕群はそれぞれの項目で他群と比べて有意に大きな値を示した。〔泣いてなだめにくい〕群は「不安，抑うつ」得点よりも，「育児困難感」得点で大きな有意差が見られた。

(7)夫(父親)および父子関係

〔夫と子どものことでの話し合いがあまりない〕群，〔夫と気持ちが通じ合わない〕群は他群に比して両因子ともに有意に大きな得点を示した。

子どもに対し消極的な群ほど「育児困難感」得点は大きくなった。また，家事に消極的な父親の群ほど同様に「育児困難感」は有意に大きい。「不安，抑うつ感」得点は積極的な父親群ほど大きく，注目される。子どもを生む決心を誰がしたかでは「不安・抑うつ感」得点に差はなく，〔主に母親が決めた〕群あるいは〔二人で決めた〕群よりも〔主に夫が決意した〕群は「育児困難感」得点は大きく有意差が認められた。

(8)地域・居住

〔地域に小さい子がいない〕群はそうでない群と比べて「不安，抑うつ」得点が大きい。一戸建てか集合住宅かでは両因子ともに得点差は見られなかった。

(9)子どもの預け合い，相談

〔子どもを預けられない〕群は「育児困難感」得点が大きかった。〔相談できる友人がいない〕群は両因子ともに得点が大きかった。「不安，抑うつ感」得点は〔自分の母親に相談できない〕群で大きいものであった。また，〔対象児以外のきょうだいへの心配事がある〕群は両因子の得点がともに大きい。

(10)母親の就労，年齢

「不安，抑うつ感」得点は専業主婦において大きい。つぎに母親および父親の年齢が低い群ほど「育児困難感」得点も大きかった。

以上，第１，第２因子の得点を求め，有意差の認められた項目をみてきたが，各因子の特徴的な項目をあげると次のようである。

「育児困難感」因子の得点では〔のぞまない妊娠〕，〔父親の子どもへの消極性〕，〔父親の家事への消極性〕，〔夫が主に生むことを決めた〕，〔母親，父親の年齢が若い〕の各群がそれぞれの項目の他群よりも有意に大きな得点を示した。

「不安，抑うつ感」因子の得点は〔地域に小さい子が少ない〕，〔子どもを預けられない〕，〔自分の母親に相談できない〕，〔専業主婦〕の各群が同様にそれぞれに対応する項目内の各群よりも有意に大きかった。

Ⅳ．考察

３歳未満児の前報告に引き続き，３歳以上７歳未満児の母親を対象に調査研究を行い，乳幼児期を通しての育児不安を明らかにすることを目的に本研究を行った。以下，研究方法を含め，得られた知見を考察し，育児不安に対する保健指導，育児相談に寄与したいと考える。

調査項目の選定について，３歳未満児との比較検討と乳幼児期全体にわたる育児不安を捉えるために，選択肢を３歳児以上に合わせて一部変えたのみで同じ項目を採用した。そのため，幼児期独自の必要項目が抜けている可能性がある。今後，文献及び育児相談の臨床経験の中から適切な項目を加える必要性があると考える。調査標本は1242名であり，比較的大きなものといえるが，調査地域が偏っていることや全国の適正な標本抽出とはいいがたいことなどから，直ちに得られた知見を一般化することは難しい。

データの整理について，３つの因子が抽出されたがこれらに基づいて対象者を分類し，育児不安のタイプの分類の特徴を明らかにするための統計的方法を考えたい。これを含め，今後，育児不安尺度の作成を試み

たい。

1．単純集計及び3歳未満群と3歳以上群との比較考察

(1)育児不安項目について：両群を比較検討すると3歳以上群の母親には「育児に自信がもてない」「母親として不適格」等7つの項目が有意に多く，しかも，第1因子「育児困難感」を構成する8項目中5項目が含まれている(表1，表2参照)。

一方，3歳未満群の母親の特徴は，〔育児のために我慢ばかりしている〕等3項目のネガティブなものもあるが，〔子どもといると楽しい〕，〔楽天的〕等ポジティブな項目が有意差をもって5項目みられていることにある。そして，「育児困難感」因子の構成項目は1項目にすぎない。従って，この結果をみる限り，3歳以上の母親は育児に対し，より困難な感じをもっているのであろうこと，方や，3歳未満群の母親は不安はあっても，比較上のことではあるが楽しさ，楽天的などポジティブな感覚をもって育児にあたっているものと考えられる。

(2)育児への不安，心配，手助けの時期について：全体的な不安，心配をもったことのない人が23.1%，現在心配している人が10.4%という数値をみる限り，巷間いわれるほどのことはないように思われる。ただし，その自己評価と質の問題があろう。心配の時期は妊娠中，退院から3ヶ月，2歳と3歳前後に多く，乳幼児健診での育児相談の重要性を強調したい。手助けの必要性は，3歳未満群に有意に多いこと，そして，その時期は退院から3ヶ月，1歳と2歳前後に多く，父親をはじめとした育児援助の必要な時期といえよう。

(3)子どものようす：大多数の母親が，子どもについて満足としていることは評価できる。ただし，3歳以上になると有意に不満足が高くなることに留意したい。

おしゃべり，内気，神経質等子どもの性質は，年齢要因の関連で両群間に有意差がみられることは当然である。現在の心配では，身体や病気のことがもっとも多く，育児相談において，最近とみに関心をもたれている発達や心の問題と同時に，変わらず身体的側面にも重点をおくべきであろう。

(4)妊娠，出産について：多くの人が妊娠を望んだとしており，それだけに次の子をほしくないとするものが3歳以上の母親に67.6%いることは注目に値する。上に，あるいは下の子がいることもあろうが，出生率の問題としてその他の要因も検討したい。

自分の子をもつ前の乳児との関わりについて，授乳やおむつ替え等の育児行動の比率が低く，教育の一環としての保育所や乳児院等での体験学習を考えたい。

(5)乳児期のようす：あまり眠らない，なだめにくい泣き，飲みのわるさ，大変手のかかる子の比率が少なからずあり，これらはdifficult babyである可能性をもち，母親とのよい相互性を妨げることがあるので，乳児健診においてその対応の仕方について相談にのりたい。

(6)夫(父親)及び父子関係について：3歳以上になると，子どものことでの夫婦の話し合いが有意に低くなる。これは，気持ちの通じ合いの低下と関連しているとも考えられ，両親学級，乳幼児健診，育児相談等への父親の参加の必要性を示していると考える。また，子どもと父親の関わりも，3歳以上では消極的な傾向にあり，同様な関与をしたい。子どもを生む決心を約10%の父親がしており，このことは育児不安と関連をもつので後述したい。

(7)住居，近隣の状況について：近所に小さい子が少ない状況が40から50%あり，自然な友達遊びの機会をもてない状況にある。公園での遊びもグループ化するなど，子どもをめぐって，母親の対人関係に問題を生じさせ，このことが育児不安と関連している可能性がある。3歳未満群では62.9%が子どもを預け合うことがなく，保育所などの対応が必要である。

(8)相談に関して：相談できる友人，自分の母親への相談ともに3歳以上の母親に少ない。この理由は定かではないが，保健所等の相談機関の利用も3歳未満の母親に多く，気軽に相談できる窓口が必要であろう。このことと関連して前述の育児相談と母と子の遊びの教室への要望が極めて高いことを特記したい。

(9)育児の情報源について：育児雑誌等メディアの利用率は高いが，役に立つ率が相対的に低い。親や友人そして保健所，保健センター等は利用率と役立つ率が相対的に高く，専門，非専門を問わず人を介した情報の提供が重要であり，それだけに誤りのない有用な情報が求められる。

(10)子どもに関する心配事について：病気など身体への心配については既に述べた。ここでは，極端な人見知り，ひどく怖がる，母から離れない，そしてこだわりの強さに注目したい。それは不安を基底にして発生することが多いからであり，母子関係の基本的機能である安全性が問題になり，母親の育児不安との関連が考えられる。

2．育児不安の因子に関する考察

因子分析により３つの因子が抽出され，第１因子「育児困難感」，第２因子「不安，抑うつ感」，第３因子「非社会性」と名づけ，育児不安を構成する３つの構成要因(変数)と考え，考察を加えたい。３歳未満の母親群と比較すると「非社会的」因子が抽出されたことがまず第１にあげられる。この理由として考えられることは，幼児期になると子どもを通した母親の対人関係が広がり―母親同士のつきあい，幼稚園等の先生との関係など―それだけに，もともと人づき合いを不得手とするものにとって，むずかしい時期といえよう。

第２点は，３歳未満群において第２因子であった「育児困難感」が，３歳以上群では第１因子となり，逆転していることである。前回の報告でこの因子が育児不安の本態に近いことを指摘したが，幼児期こそ育児不安の強い時期であるといえよう。それは，因子を構成している項目がこのことをよく示している。即ち，８項目中７項目が子どもと関係があり，さらに３歳未満群にはない〔子どものことでどうしてよいか分からない〕，〔育児について，いろいろ心配なことがある〕の項目が出現していることにある。つまり，育児上の困難や不安などが日々の育児の中で直面する最大の課題となっていることを示すものであり，３歳未満群ではこの課題よりも自己の不安や抑うつ感の方が上回っているものとも考えられよう。この点については，次節で更に他の項目との絡みで考察したい。

第２因子「不安，抑うつ感」では，〔特に理由はないが子どものことが気になる〕という子どもに関する項目が入ったことが特徴である。前報告では３歳未満群では，不安，抑うつ傾向にある母親は二次的に育児上の不安を生じやすいことを指摘したが，３歳以上群においてanxiousな子どもへの気づかいが母親の不安に混入しているものと考える。一方，３歳以上群では，未満群にみられた〔いてもたってもいられないほど落ちつかない〕という不安発作に近い不安感を示す項目がなく，この時期になると育児が母親のポテンシャルな不安を直接強く刺激することが減少するとも考えられる。

３．育児不安の構成因子と各項目に関する考察

「育児困難感」「不安，抑うつ感」因子による有意な得点差が生じた項目は共通しているものが多い。即ち，育児への心配，不安，手助けの時期はいずれも〔現在〕群でもっとも両因子の合計得点は大きく，まさに今すぐの援助を必要としている。子どもへの不満足さが増す群ほど２つの因子のスコアも大きくなる傾向にあり，このことは，幼児期の一般的な行動特徴や心配とされる行動，性質，発達との関連及び，育児不安をもつ母親の子どもへの評価が関与しているものと考える。低く評価された子どもは，子ども自身の自己評価の低さをもたらすことになり，相談の必要があろう。病気，行動，性質，発達についても，その心配が妥当なものかどうか見分けることが，育児不安の相談において重要な仕事である。

常識ともいえるが，子どもについての夫婦の話し合い，気持ちの通じ合いが少ないほど２つの因子の得点はネガティブとなる。育児相談における父親の参加，父親面接や父母合同面接の必要がここにある。これに関連して相談できる友人がいない群は両因子の得点がネガティブになり，母親グループや相談の場作りが望まれる。

次にそれぞれの因子に特徴的な要因をあげ，考察を加えたい。

まず，第１因子である「育児困難感」は〔のぞまない妊娠〕群で大きなスコアを示した。筆者らの研究では，妊娠をのぞまなかったにもかかわらず，生んで後に子どもへのポジティブな感情を育て，因子項目にみる状態を示さない母親が多くみられる[2]。のぞまない妊娠がなぜこのような状態と結びつくのか，更に関連要因の検討が必要である。〔父親の子どもや家事への消極性〕群について，具体的な子どもとの遊びや家事行動が少ないことの影響もあろうが，父親の役割についての研究によると[3]，母親が第１位にあげる「子どもや家庭についての相談相手，精神的支持，援助」の不十分さが「育児困難感」と関連している可能性がある。

また，子どもを生むことを主に決めたのは大多数が母親及び二人で決めており(89.8%)，〔夫が決めた〕群の育児困難得点が先の他群よりも大きかったことは，母親の意志への配慮のなさ，あるいは主体性を尊重しなかったことの影響も考えられよう。

〔若い父母〕による得点の大きさは考察するまでもないであろう。要望の多い育児相談の場や母と子の遊びのグループ，母親同士で相談し合える場，あるいは両親学級など，若い父母への育児援助を特に考えたい。

第２因子「不安，抑うつ感」得点について，〔地域に小さい子が少ない〕ことと不安の大きさがどう結びつくのか，友だち遊びの機会がもてないことへの懸念や，いつも子どもとベッタリしていなくてはならない状況が影響しているのかもしれない。これと関連して

くるものが〔子どもを預けられない〕群である。保育所，乳児院で最近試みられている一時保育は大きな役割を果たせそうである。

〔母親に相談できない〕群の不安得点の大きさについて，いま相談し得ないためもあろうが，母親自身の母子関係に振り出しがあるとの仮説も成り立つであろう。というのは，母子関係の基本的機能は安全性にあり[4]，これが不安制止のはたらきをしているからである。こうした育児不安をもつ母親は，本来不安傾向にあると既に指摘した。なお，不安と抑うつはコインの表裏の関係にあることを付記しておきたい。〔専業主婦〕の不安の大きさについて考え得ることは，上記の子どもと常時いなくてはならないこと，このことが〔特に理由はないが，子どものことが気になる〕群の気づかいとなり，不安と関連をもつというものである。また，別の角度から，現在の母親たちは，母として，妻としてのみでなく，仕事を通しての社会的存在としてもありたいと望んでいる。たとえば，育児の不満足に関連する要因として，育児による仕事の阻害感を見いだした研究がある[5]。つまり，仕事を通しての社会生活から離れたことにより，孤立し，このことと不安と結びつく可能性も考え得る。

以上，３歳以上の幼児期の子をもつ母親を対象に，育児不安を構成する構成要因(因子)を抽出し，３歳未満のデータと比較しながら，構成要因の大きい(ネガティブな)得点を示したのであるが，多くの質問項目の特定の選択肢を選んだ群であることを見いだすことにより，この時期の特徴をある程度明らかにし得たと考える。特に，幼児期の母親は，乳児・幼児初期に比べ，より育児に困難感を有していること，また，両時期の第１因子が逆転し，乳児・幼児初期においては「不安，抑うつ」因子が，幼児期では「育児困難感」因子が最大の構成要因となっており，また，それぞれの因子を構成する項目にも微妙な相違があり，この２つの時期の育児不安は質的に異なる可能性がある。従って，育児不安の相違に適した育児相談，保健指導等の対応が重要であり，そのためのいくつかのポイントを指摘した。

今後，育児不安のタイプを分類し，各タイプの育児不安を示した人の詳細な臨床的分析を行うことが必要である。そしてそれに要する育児不安尺度の作成とその臨床的適用を試み，育児相談や保健指導における育児不安への適切な対応を提起したいと考える。

引用文献

1)川井　尚・庄司順一・千賀悠子・加藤博仁・中野恵美子・恒次欽也：育児不安に関する基礎的研究．日本総合愛育研究所紀要，第30集，27－39，1994.

2)川井　尚・恒次欽也・庄司順一ほか：母親の子どもへの結びつきに関する縦断的研究－妊娠期から幼児初期まで－．発達の心理学と医学，１(1)，99－109，1990.

3)恒次欽也・川井　尚・庄司順一ほか：育児における父親の役割に関する研究－父親・母親を対象として－．厚生省心身障害研究「少子化時代に対応した母子保健事業に関する研究」平成５年度研究報告書。121－130，1993.

4)ボウルビイ，Ｊ．：母と子のアタッチメント－心の安全基地－．二木　武監訳　医歯薬出版，1993.

5)大藪　泰・前田忠彦：乳児をもつ母親の育児満足感の形成要因．小児保健研究，53(6)，826-834，1994.

付表1-1　育児について心配を感じたこと

項　　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %
心配を感じたことはない	279	23.2	161	21.6
現在心配である	125	10.4	102	13.7
以前心配だった	799	66.4	484	64.8
計	1203	100.0	747	100.0

χ^2=5.0　n.s.

以前育児に心配があった場合，その時期

項　　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %
妊娠中	104	12.6	122	23.5
出産入院中	35	4.2	49	9.4
退院直後	61	7.4	69	13.3
退院から1ヶ月まで	138	16.7	146	28.1
1ヶ月すぎ～3ヶ月	124	15.0	128	24.7
4ヶ月～6ヶ月	48	5.8	52	10.0
7ヶ月～11ヶ月	39	4.7	42	8.1
1歳前後	72	8.7	36	6.9
1歳半前後	62	7.5	18	3.5
2歳前後	116	14.0	8	1.5
3歳前後	156	18.9		
4歳前後	55	6.7		
5歳前後	25	3.0		
6歳前後	15	1.8		

（注）複数の時期を選択した人がいる

付表1-2　育児について手助けがほしかったこと

項　　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %
手助けをほしいと思ったことはない	160	13.2	70	9.4
現在手助けがほしい	39	3.2	198	26.6
以前手助けがほしかった	1013	83.6	476	64.0
計	1212	100.0	744	100.0

χ^2=237.2　***

以前手助けがほしかった場合，その時期

項　　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %
妊娠中	30	2.9	27	5.2
出産入院中	40	3.9	19	3.7
退院直後	120	11.8	114	22.0
退院から1ヶ月まで	291	28.6	203	39.2
1ヶ月すぎ～3ヶ月	246	24.2	151	29.2
4ヶ月～6ヶ月	94	9.2	40	7.7
7ヶ月～11ヶ月	73	7.2	32	6.2
1歳前後	141	13.9	28	5.4
1歳半前後	105	10.3	13	2.5
2歳前後	123	12.1	5	1.0
3歳前後	64	6.3		
4歳前後	9	0.9		
5歳前後	2	0.2		
6歳前後	1	0.1		

（注）複数の時期を選択した人がいる

付表2　子どものようすの評価

項　　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %
満足している	261	21.3	328	43.0
まあまあ満足している	851	69.5	402	52.8
やや不満足である	104	8.5	29	3.8
不満足である	8	0.7	3	0.4
計	1224	100.0	762	100.0

χ^2=17.1　***

付表3　子どもの性質（複数回答）

項　　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %	χ^2値	有意性
明るい	907	73.9	489	64.9	18.1	***
元気	955	77.8	633	84.0	11.2	***
泣き虫	395	32.2	228	30.2	0.9	―
甘えん坊	690	56.2	460	61.0	4.5	*
おしゃべり	518	42.2	236	31.3	23.6	***
内気	224	18.2	42	5.6	63.6	***
神経質	257	20.9	101	13.4	17.8	***
のんびり	257	20.9	76	10.1	38.9	***
がんこ	460	37.5	321	42.6	5.1	*
しつこい	245	20.0	66	8.8	44.0	***
おちつきない	218	17.8	96	12.7	9.1	**
おとなしすぎる	41	3.3	12	1.6	5.2	*
よくわからない	16	1.3	25	3.3	9.3	**

付表4　現在心配なこと（複数回答）

項　　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %	χ^2値	有意性
身体や病気のこと	485	40.3	437	58.3	59.7	***
泣き	148	12.2	145	19.3	17.8	***
睡眠や夜泣き	134	11.0	239	31.9	131.9	***
授乳やミルク	315	25.9	104	13.9	39.7	***
離乳食	250	20.5	113	15.1	9.1	**
排泄	299	24.5	149	19.9	5.6	*
行動や癖	393	32.1	223	29.7	1.6	—
性質	404	33.5	206	27.5	7.7	**
発達	130	10.6	83	11.1	0.1	—

付表5 妊娠について

項　　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %
のぞんでいた	724	59.2	441	58.0
計画どおり	194	15.8	109	14.3
予想外だった	237	19.4	173	22.7
まだのぞんでいなかった	69	5.6	38	5.0
計	1224	100.0	761	100.0

χ^2=3.8　n. s.

付表6　妊娠したときの気持ち

項　　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %
とてもうれしかった	642	58.8	419	55.2
うれしいが不安だった	394	36.1	294	38.7
とても不安だった	56	5.1	46	6.1
計	1092	100.0	759	100.0

χ^2=2.6　n. s.

付表7　出産後，涙もろくなったりしたこと

項　　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %
なかった	605	55.6	377	50.0
あった	483	44.4	377	50.0
計	1088	100.0	754	100.0

χ^2=5.6　*

付表8　次の子どもをほしいか

項　　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %
ほしい	247	23.3	318	42.3
まだほしくない	96	9.0	215	28.6
もうほしくない	719	67.6	218	29.0
計	1062	100.0	751	100.0

χ^2=277.1　***

付表9　出産前に赤ん坊とかかわった経験（複数回答）

項　　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %	χ^2値	有意性
抱いたことがある	673	62.5	518	69.2	8.7	**
あやしたり，遊んだことがある	623	57.9	496	66.2	12.9	***
ミルクをあげたり，離乳食を食べさせたことがある	312	29.0	233	31.1	0.9	—
おむつをかえたことがある	335	31.1	266	35.5	3.9	*
世話や相手をしたことはない	352	32.7	202	27.0	6.8	**

付表10　子どもの乳児期(生後半年くらいまで)のようす

眠り

項　　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %
すごくよく眠った	320	29.3	243	32.6
ふつうだった	547	50.0	351	47.1
あまり眠らない方だった	227	20.7	151	20.3
計	1094	100.0	745	100.0

χ^2=2.4　n.s.

泣くこと

項　　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %
あまり泣かなかった	163	14.9	144	19.3
ふつうだった	577	52.7	324	43.5
よく泣いたが，なだめやすかった	204	18.6	173	23.1
よく泣き，なだめにくかった	150	13.7	106	14.2
計	1094	100.0	747	100.0

χ^2=17.5　***

母乳やミルクの飲みぐあい

項　　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %
よく飲んだ	494	45.2	431	57.9
ふつうだった	448	41.0	242	32.5
飲みがよくなかった	151	13.8	72	9.7
計	1093	100.0	745	100.0

χ^2=28.9　***

乳児期の印象

項　　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %
おとなしく，手がかからなかった	343	31.4	263	35.3
ふつう	559	51.2	358	48.1
とても手がかかり，大変だった	189	17.3	124	16.7
計	1091	100.0	745	100.0

χ^2=3.0　n.s.

付表11　夫とのこと

子どものことを話し合う機会

項　　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %
よくある	832	77.3	658	88.0
あまりない	244	22.7	90	12.0
計	1076	100.0	748	100.0

χ^2=33.4　***

気持ちが通じ合っているか

項　　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %
はい	758	70.6	594	79.3
いいえ	59	5.5	20	2.7
どちらともいえない	257	23.9	135	18.0
計	1074	100.0	749	100.0

χ^2=19.8　***

ご主人は子どもの相手をするか

項　　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %
積極的である	357	33.1	377	50.4
まあまあ積極的である	492	45.7	301	40.2
あまり積極的でない	183	17.0	53	7.1
消極的である	45	4.2	17	2.3
計	1077	100.0	748	100.0

χ^2=45.1　***

ご主人は家事に積極的に参加しているか

項　　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %
積極的である	145	13.4	210	28.0
まあまあ積極的である	393	36.4	271	36.2
あまり積極的でない	317	29.4	169	22.6
消極的である	224	20.8	99	13.2
計	1079	100.0	749	100.0

χ^2=36.9　***

子どもを生む決心

項　　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %
主に自分（母親）	632	59.4	420	55.9
主に夫	109	10.2	98	13.0
その他	323	30.4	233	31.0
計	1064	100.0	751	99.9

χ^2=4.0　n.s.

付表12-1　住居について

項　　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %
一戸建	550	50.8	182	24.4
マンション	330	30.5	288	38.7
アパート	202	18.7	275	36.9
計	1082	100.0	745	100.0

χ^2=141.7　***

付表12-2　居住階(マンションとアパートの場合)

項　　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %
1F	155	28.9	176	30.7
2F	118	22.0	178	31.0
3F	96	17.9	94	16.4
4F	80	14.9	58	10.1
5F	47	8.8	57	9.9
6F～9F	25	4.7		
10F～13F	15	2.8	11	1.9
計	536	100.0	574	100.0

χ^2=18.1　**

付表12-3　隣や階下への気づかい

項　　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %
ある	357	63.4	252	42.6
ない	206	36.6	339	57.4
計	563	100.0	591	100.0

χ^2=49.9　***

付表13　地域に小さい子どもは

項　　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %
多い方	545	50.0	423	56.2
少ない方	544	50.0	330	43.8
計	1089	100.0	753	100.0

χ^2=6.7　**

付表14　身近な人たちと子どもを預け合うこと

項　　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %
よくある	202	18.5	71	9.4
たまにある	506	46.3	208	27.6
ない	386	35.3	474	62.9
計	1094	100.0	753	100.0

χ^2=138.0　***

付表15　困ったとき相談できる友人

項　　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %
いる	985	90.2	707	93.0
いない	107	9.8	53	7.0
計	1092	100.0	760	100.0

χ^2=4.5　*

付表16　自分の母親に何でも相談できるか

項　　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %
できる	839	77.5	638	84.7
できない	243	22.5	115	15.3
計	1082	100.0	753	100.0

χ^2=14.6　***

付表17　子どものことで相談できる人（複数回答）

項　　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %	χ^2値	有意性
夫	973	88.9	685	90.0	0.5	—
両親	766	70.0	603	79.2	19.7	***
自分のきょうだい	450	41.1	291	38.2	1.6	—
親戚	74	6.8	96	12.6	18.0	***
友人・知人	840	76.8	579	76.1	0.1	—
保育園の先生	437	39.9	279	36.7	1.9	—
医師	205	18.7	202	26.5	16.0	***
保健所・保健センター・児童相談所	54	4.9	81	10.6	21.9	***
近所の人	263	24.0	161	21.2	2.0	—
心理カウンセラー	8	0.7	4	0.5	0.3	—
その他	8	0.7	11	1.4	2.3	—
いない	5	0.5	2	0.3	0.4	—

付表18　子どもを育てるのに必要なシステム（複数回答）

項　　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %	χ^2値	有意性
育児相談（電話相談，面接など）	528	52.3	381	54.0	0.5	—
保健婦の家庭訪問	225	22.3	204	28.9	9.6	**
育児教室	299	29.6	217	30.7	0.2	—
母と子の遊びの教室	480	47.5	396	56.1	12.3	***
その他	75	7.4	61	8.6	0.8	—

付表19-1　育児に関する電話相談

項　　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %
したことがある	130	11.9	145	19.1
したことがない	961	88.1	614	80.9
計	1091	100.0	759	100.0

χ^2=18.3　***

付表19-2　電話相談したことがある人のその回数

項　　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %
1回	60	48.0	67	48.2
2回	33	26.4	36	25.9
3回	18	14.4	22	15.8
4回	1	0.8	3	2.2
5回	6	4.8	5	3.6
6回	2	1.6	1	0.7
10回以上	5	4.0	5	3.6
計	125	100.0	139	100.0

χ^2=1.6　n.s.

付表20　育児に関する情報源（複数回答）

項　　目	利用するもの						役に立つもの					
	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %	χ^2値	有意性	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %	χ^2値	有意性
育児雑誌	577	53.0	510	68.8	45.6	***	327	26.9	316	41.9	47.4	***
育児書	392	36.0	355	47.9	25.7	***	214	17.6	206	27.3	26.1	***
テレビ・ラジオ番組	479	44.0	322	43.5	0.1	—	208	17.1	132	17.5	0.1	—
自分の親やきょうだい	685	63.0	476	64.2	0.3	—	636	52.3	392	51.9	2.5	—
近所の人や友人	870	80.0	542	73.1	11.6	***	857	70.5	436	57.7	33.4	***
保健所や保健センター	161	14.8	143	19.3	6.4	*	122	10.0	93	12.3	2.5	—
医院・病院	295	27.1	250	33.7	9.2	**	268	22.0	187	24.8	2.0	—
その他	34	3.1	31	4.2	1.4	—	33	2.7	30	4.0	2.4	—

付表21　子どものきょうだいへの心配

項　　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %
ない	835	79.8	268	80.2
ある	212	20.2	66	19.8
計	1047	100.0	334	100.0

χ^2=0.1　n.s.

付表22　現在，心配だったり気になること（複数回答）

病気の種類

項　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %	χ^2値	有意性
湿疹	118	24.4	190	39.4	25.1	***
微熱	4	0.8	5	1.0	0.1	−
熱	55	11.4	54	11.2	0.1	−
風邪	157	32.4	167	34.6	0.5	−
吐く	27	5.6	45	9.3	4.9	*
ひきつけ	15	3.1	16	3.3	0.1	−
肥りすぎ	38	7.9	39	8.1	0.1	−
体重増えず	81	16.7	61	12.7	3.2	**
その他	163	33.7	108	22.4	15.2	***

排泄

項　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %	χ^2値	有意性
下痢	15	5.1	32	68.8	26.2	***
便秘	81	27.4	67	55.8	35.3	***
夜尿	159	53.7				
頻尿	39	13.2				
その他	33	11.1	87	55.8	104.3	***

子どもの性質

項　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %	χ^2値	有意性
癇が強い	86	21.3	90	38.8	22.6	***
おとなしすぎ	36	8.9	12	5.2	3.0	−
極端な人見知り	26	6.4	13	5.6	0.2	−
ひどく怖がる	35	8.7	14	6.0	1.4	−
表情くらい	7	1.7				
落ち着きがない	122	30.2	47	20.3	7.5	**
母から離れない	46	11.4	40	17.2	4.3	*
驚きやすい	39	9.7	61	26.3	30.8	***
拘り	94	23.3	26	11.2	14.0	***
その他	105	26.0	20	8.6	28.2	***

夜泣きなど

項　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %	χ^2値	有意性
夜泣き	27	20.3	99	38.4	13.1	***
眠り浅い	18	13.5	84	32.6	16.5	***
一人で寝ない	79	59.4	114	44.2	8.1	**
その他	31	23.3	41	15.0	3.2	−

癖

項　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %	χ^2値	有意性
指しゃぶり	204	52.7	139	55.2	0.4	−
タオル	34	8.8	18	7.1	0.6	−
爪かみ	112	28.9	68	27.0	0.3	−
その他	94	24.3	55	21.8	0.5	−

発達

項　目	3歳児以上 N	3歳児以上 %	3歳児未満 N	3歳児未満 %	χ^2値	有意性
言葉が遅い	38	29.9	27	30.0	0.1	−
全体に遅い	34	26.8	29	32.2	0.8	−
その他	59	46.5	35	38.9	1.2	−